

平成24年3月13日

報道機関各位

財団法人東北活性化研究センター

「雫石町観光・交流活性化行動計画策定プロジェクト」の調査結果概要について

財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱取締役会長）は、このほど、「雫石町観光・交流活性化行動計画策定プロジェクト」について報告書を取りまとめましたのでお知らせいたします。

当センターでは、東北の地方自治体や会員企業等が主体となるプロジェクトで、東北の地域活性化にとって先導性や公共性が高く、かつ地域への波及効果が大きい案件に対し、実施主体からの支援要請に基づき、企画・立ち上げのための調査や各種ノウハウ・情報の提供等の支援・協力を行っております。

本プロジェクトは、岩手県雫石町より支援要請を受け、有識者、観光関連団体等の代表者によって構成される「雫石町観光・交流活性化行動計画策定委員会」（委員長：安島 博幸・立教大学観光学部教授）を設置して、調査・検討を行ってきたものです。

雫石町では、平成18年度に「雫石町観光ビジョン」を策定し、各事業に取り組んできたところでありますが、観光客の減少に歯止めがかかっていない状況にあります。

本プロジェクトでは、こうした現状を踏まえ、同町の観光施策の見直しを行い、時代の変化に対応した新しい観光施策の行動計画を策定するため、当センターが支援・協力してきたものです。

本プロジェクトの調査結果概要については、別添資料のとおりです。

以 上

<添付資料>

- ・ 調査結果の概要

【お問い合わせ先】

財団法人東北活性化研究センター（担当：星）

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL 022-222-3357 FAX 022-225-0082

URL <http://www.kasseiken.jp>

## 「雫石町観光・交流活性化行動計画策定プロジェクト」の調査結果概要について

### 1. 計画策定の趣旨

雫石町では、平成18年度に「雫石町観光ビジョン」を策定し、翌年度から行動計画を定め各事業に取り組んできたところであるが、観光客の減少に歯止めがかかっておらず、このままでは町内観光関係事業者の廃業と撤退につながりかねないとの強い危機感を抱いている。

本プロジェクトでは、雫石町からの支援要請に基づき、同町の観光施策の見直しを行い、時代の変化に対応するための新しい観光施策の行動計画策定を支援するものである。

### 2. 雫石町の観光・交流の現状と課題

平成22年の雫石町への観光レクリエーション客の入込数は約228万人回<sup>※</sup>であり、平成8年の約357万人回をピークに減少が続いている。

同町は全国的な認知度のある小岩井農場や11の温泉地が立地し、多様な資源を有しているものの、町全体としてみると、首都圏等の遠方から観光客を誘客できる認知度の高い観光資源は少ない。

今後は、「雫石町」としての魅力で来訪してもらうために、雫石町の歴史に根ざした生活に身近な地域資源を発掘するとともに、町全体としての魅力等を効果的に発信し、町のイメージを確立していく必要がある。

同町では、基幹産業である農業と観光産業の連携が進められており、「雫石町農産物認証制度」や農業と観光施設を仲介する受注配送システムが構築されているほか、郷土料理など地域の農村文化を観光客に提供する先進的な取り組みが行われているものの、観光客に対する情報発信が十分ではない面がある。

近年、農村地域内を走る街道沿いの複数施設が連携して新たな魅力を創出している長山街道のような成功事例もあり、こうした取り組みを町全体に広げ、街道やエリア・テーマ等で連携・協力することで、宿泊施設・観光施設の活性化を図っていく必要がある。

※人回・・・観光客1人の1回の来訪を1人回とカウント

### 3. 雫石町の観光・交流の活性化に向けての戦略および重点プロジェクト

本プロジェクトでは、雫石町の観光・交流の現状と課題を踏まえ、同町の観光・交流活性化に向けての考え方を整理し、その具体化としての基本戦略および重点プロジェクトについてとりまとめた。

今後、本プロジェクトの検討結果をベースに各施策が順次具体化されていくことで、雫石町における観光・交流の活性化につながることを期待するものである。

(雫石町観光・交流活性化に向けての考え方)

- ①地域資源の保全・活用による町のイメージ「雫石（しずくいし）」を確立する。
- ②雫石盆地が育む農業および農村文化を活かす
- ③雫石盆地の恵みである酪農産物等を観光を通じて提供する。

④入込客数が低迷している宿泊施設・観光施設の活性化を図る。

⑤住民や広域周辺地域と連携して観光客をもてなす。

(基本戦略および重点プロジェクト)

基本戦略	重点プロジェクト
戦略1 雫石町を連想させる地域イメージの構築	・ 対外的なキャッチコピーの検討
戦略2 雫石盆地の酪・農村文化の観光的活用	・ 農村集落で受け継がれている地域の歴史や伝統行事、伝承、食等発掘事業
戦略3 地産地消の推進等による農業と観光・交流の連携	・ 雫石産食材や郷土料理等を扱う飲食施設等の効果的な情報発信事業
戦略4 観光・交流施設の魅力づくりと誘客促進	・ 集落民宿モデル事業 ・ 観光産業と農家等のマッチングシステム構築事業 ・ 街道・エリアでの連携の強化と一体的な情報発信事業
戦略5 観光まちづくりや観光推進(受け入れ)体制の強化	・ 観光関連組織によって構成されるプラットフォームの形成 ・ 観光・交流に対する理解促進事業

(参考) 雫石町観光・交流活性化行動計画策定委員会名簿

(敬称略、順不同)

	氏名	所属・役職
委員長	安島 博幸	立教大学観光学部 教授
委員	坂倉 海彦	株式会社エボン 代表取締役
委員	石井 宏子	温泉トラベルデザイン研究所 代表
委員	中村 直美	株式会社交通新聞社 旅の手帖編集部長
委員	工藤 敏英	社団法人しずくいし観光協会 理事長
委員	川口 善昭	鶯宿温泉観光協会 会長
委員	加藤 完	雫石商工会 会長
委員	加藤 岳夫	新岩手農業協同組合 南部営農経済センター長
委員	向久保 文一	東日本旅客鉄道株式会社 販売促進課長
委員	吉田 勇	株式会社しずくいし 常勤取締役
委員	中川 一	グリーン・ツーリズム推進協議会 会長
委員	関口 哲雄	財団法人東北活性化研究センター 専務理事